

# 医療運動推進ニュース NO.1357

全国保険医団体連合会 医療運動推進本部 事務局発行

TEL03-3375-5121 FAX03-3375-1862 (A 4-2 枚)

2021年4月26日



## ■「75歳以上窓口負担2割化法案阻止」の緊急行動を呼びかけます

国会では、75歳以上の窓口負担2割化を含む健康保険法等改正法案が審議され、28日にも衆議院厚生労働委員会での採決強行が狙われています。コロナ禍で2割化反対の国民世論が広がり、野党から中止を求める意見が相次いでいます。こうした状況を会員に伝え、地元国会議員への要請など各地から声を上げる取り組みが急務です。保団連では、協会会員向けのFAXニュースと緊急要請ひな形を作成しました。法案審議の山場に向けて大きく取り組みましょう。詳細は、情報共有スペース「医療運動推進本部」→「医療運動」内の事務連絡(4月22日発出)をご確認ください。

## ■4月22日国会行動(第2報)

### #医療費2倍化とめる署名提出集会

保団連は4月22日、#医療費2倍化とめる署名提出集会を開催。ウェブ参加を含め約250人が参加しました。また、8人の議員がかけつけ、医療費窓口負担2倍化の阻止を訴えました。



開会挨拶する住江会長

### ◆開会挨拶

#### 保団連 住江憲勇会長

コロナ禍から1年が過ぎたが、国民はいまも苦境にある。国民生活を守るために財政出動し、富裕層・大企業を優遇する政策を見直す世界の潮流に反し、安倍政権は生活補償を拒み自粛のみを強いた。骨太方針2020では、社会保障の削減と労働分配率の引き下げ、デジタル化による情報の集約などを打ち出した。引き継いだ菅政権は、自己責任論を強調するとともに医療法や健保法の「改正」

など社会保障改悪を打ち出し、ショックドクトリンそのものだ。国民生活を破壊する政治には来たる総選挙で鉄槌を下すしかない。75歳以上の窓口負担2割化反対の大きな世論をつくるために全国で声を上げよう。

### ◆情勢報告

#### 中央社会保障協議会 山口一秀事務局長

厚生労働委員会で健保法改正法案の審議が本格開始した。20時間の質疑を経て、明日にも採決強行がもくろまれている。しかし、その審議時間がすべて2割化の問題に充てられたのではない。昨日の委員会でも立憲民主党の委員が、「いまコロナが急拡大している中で本当に法案を通そうとするのか」と厚労大臣に迫った。

争点は2点ある。1点目に、この法案は受診抑制が前提となっていることだ。「長瀬効果」で受診日数が減るとして900億円の給付減が見込まれているが、根拠も不明確だ。審議の差し戻しと撤回が求められる。2点目は、法律案に2割負担の根拠がないことだ。所得基準は政令によって決めることができ、国会を経ずに負担増対象者を際限なく増やすことができる。委員会では「しっかりと調査し、改めて審議するべきだ」、「現段階での採決強行は許されない」との意見が野党で共通している。最後まで声を上げ続けよう。



### ◆当事者からの発言

#### 東京高齢期運動連絡会 早川明好氏



自分で好んで病気になる人はいない。健康管理に注意していても病気はどこからくるかわからない。私は今年で80歳になるが、65歳を過ぎてからポリープや前立腺がん、関節リウマチにかかった。3月にも頭痛を感じ受診したところ、放置すれば後遺症の可能性もある帯状疱疹と診断された。窓口負担が2倍化されると負担が増え困る。

現役世代の負担軽減額も年間 350 円と少ない。現役世代もいつかは高齢者になる。子どもや孫が政治に不信を持つような政策は行うべきでない。

### 全日本年金者組合 加藤益雄副委員長

参考人質疑を傍聴したが、窓口負担の引き上げによって所得の低い人が受診抑制する、「弱い者いじめ」の法案だと痛感した。政府は受診抑制について調査を拒んでいるが、二本立参考人は「受診抑制のデータはある」と意見陳述していた。



1 割負担導入の際には、日雇い労働者健康保険においては、受診が 10% 減少した。犠牲になるのは低所得・低賃金の層だということは明らかだ。住江会長も参考人として、受診抑制による認知症や歯周病の悪化について指摘した。負担増は行うべきではない。

### ◆医療現場から 北海道勤医協 近藤良明氏

医療現場は、感染対策を行いながら日常診療を行っており大変だ。このような時に病床削減や負担増はとんでもない。北海道の友の会で新聞に署名を折り込んだところ 1500 人の署名が戻ってきた。募金も寄せられ、「どうしても負担増やめてほしい」との声が届けられている。老人クラブからも 14 の団体から署名用紙などの問い合わせがあった。宣伝行動も行っており、市民からは「こんなことが起きているとは知らなかった」という反応が多い。全国の仲間と連帯しながら廃案に向けて頑張る。



### 日本医療労働組合連合会 佐々木悦子副委員長



病院では救急搬送困難事例が生じ、命の選別が行われようとしている。宮城では、全国に看護師派遣を要請した。大阪では保健所が逼迫した結果、企業から派遣を受けている状況だ。

コロナの長期化で医療従事者は疲弊しており、ぎりぎりの状態だ。これは政府が必要な職員の増員を怠っていたことが原因であるのに、それを放置して看護師の日雇い派遣を解禁した。この上、後期高齢者の命と健康を蔑

ろにしようとしているが許されない。窓口負担の引き上げには反対だ。

### 岐阜県保険医協会 竹田智雄会長(保団連理事)



多くの患者から負担増に対する怒りの声が寄せられている。がんを患う後期高齢者の夫婦が署名用紙を見て「この法案は私たちに医者にかかるなどと言うようなものだ」と語り、近所で 50 筆集めてくれた。私も老人ホームを訪問するたびに多くの署名を集めている。財源問題について疑問を持つ方に保団連の財源提案を話したところ、その場で署名をしてくれたこともあった。法案の狙いは現役世代の負担軽減でなく公費の削減だ。医師・歯科医師が先頭に立ち国民的な世論づくりに努めたい。

多くの患者から負担増に対する怒りの声が寄せられている。がんを患う後期高齢者の夫婦が署名用紙を見て「この法案は私たちに医者にかかるなどと言うようなものだ」と語り、近所で 50 筆集めてくれた。私も老人ホームを訪問するたびに多くの署名を集めている。財源問題について疑問を持つ方に保団連の財源提案を話したところ、その場で署名をしてくれたこともあった。法案の狙いは現役世代の負担軽減でなく公費の削減だ。医師・歯科医師が先頭に立ち国民的な世論づくりに努めたい。

### ◆閉会挨拶 日本高齢期運動連絡会 武市和彦事務局長

コロナ禍で国民の命が削られようとしている中で、負担増法案が審議されていること自体がおかしい。また、厚労省が提示するデータがいい加減だ。問題点を地域に広く訴えるとともに、地元議員に徹底審議を要請してほしい。この問題は現役世代の問題でもある。負担増に対する反対の声を SNS で発信することも重要だ。関係団体と協力し、最後まであきらめずに戦い抜こう。



### 今後の国会行動スケジュール

5月20日(木) 10:30~16:00  
会場：衆議院第1議員会館大会議室  
昼に、「#医療費窓口負担2倍化とめる」集会(12時30分~13時30分)を行います。集会はWEB配信を予定しています。詳細は、保団連 210426 事務通知 21-108 号 5. 20 国会行動ご案内をご覧ください。

### 「#医療費窓口負担2倍化止める」 署名・フォロー、拡散をお願いします!

現在、「75歳以上医療費窓口負担2割化撤回を求める請願署名」の取り組みとあわせ、ネット署名やTwitterアカウントでの拡散等を行っています。ぜひご協力ください。  
特設サイト：<https://hodianren.doc-net.or.jp/news/r75/index.html>  
ネット署名：<http://chng.it/f6J5ygWR>  
Twitter：<https://twitter.com/2baikaStop>